

フォーラムテーマ:「自治体における政策立案とデザイン思考の活用」

フォーラムの目的

政策情報学フォーラムは、議論を行う上で時間的制約などがある研究大会などのイベントとは異なり、小規模で政策情報学に関連した様々なテーマを取り扱い、時間をかけた密度の高い議論を行っていくことにあります。また、さまざまな異なる立場の交流と協働の「開かれた対話と創造の場」として構想されており、現実のさまざまな政策問題を探求・検討し、実際にその解決策を提示しながら、社会の持続的発展に寄与することを狙いとしています。

◆開催日時: 2024年7月6日(土) 14:30~16:30

◆開催会場: オンライン開催

◆フォーラムテーマ趣旨:

英国、デンマーク、スウェーデンなど海外では政策立案の現場でデザイン思考が取り入れられており、日本でもいくつかの自治体で政策立案の現場にデザイン思考が取り入れられ始めています。今回のフォーラムでは、昨年の「Japan+D」プロジェクトに引き続き、政策立案の場におけるデザイン思考の必要性について自治体行政の実例などを踏まえつつ議論していきます。

◆基調報告講師: 中山郁英

◆講師略歴: 滋賀県長浜市生まれ。大学卒業後、トヨタ自動車、コンサルティング会社、東京大学 i.school スタッフ等を経て、2017年より活動拠点を長浜市に移す。合同会社 kei-fu(ケイフー)プロジェクトマネージャーとして主に行政や歴史ある組織と協働。並行し「行政とデザイン」をテーマに研究。京都工芸繊維大学大学院デザイン学専攻博士後期課程修了、博士(学術)。総務省地域力創造アドバイザー。社会教育士。



◆基調報告演題: 「地方行政においてデザイン思考はいかに使えるか」(仮題)

- ◆プログラム:
- | | |
|-------------|--|
| 14:30-14:35 | 開会挨拶
政策情報学会 会長 市川 颯 (東洋大学) |
| 14:35-14:45 | フォーラム趣旨説明
フォーラム実行委員会委員長 朽木 量 (千葉商科大学) |
| 14:45-15:45 | 基調報告 「地方行政においてデザイン思考はいかに使えるか」 |
| 15:45-16:30 | フロアー討論・まとめ |

◆主催: 政策情報学会

◆出欠連絡の方法: 人数把握のため、出席・欠席に関わらず、7月1日(月)までに政策情報学会 Web サイトから出欠連絡をお願いいたします。

【学会 Web サイト】 <http://www.policyinformatics.org/>

※非会員の方の参加也大歓迎です。 ※当日の飛び入り参加も歓迎いたします。